



尾久中央地区 まちづくりニュース

令和元年11月

防災広場・防災スポットを活用する

区では、災害時に災害の規模によっては自宅での生活が困難となる方向けに避難所を開設し、仮設住宅を提供します。しかし、自宅での生活が可能な方はできるだけ自宅で生活するのが基本となります。災害後の在宅避難を支えるものの一つとして防災広場・防災スポットも活用できます。

尾久中央地区防災まちづくり協議会では、地区内に整備された防災広場・防災スポットを災害時に活用できるようにするための検討を行っています。

防災広場や防災スポットはどんな時に利用できるでしょうか。それを感じてもらうために協議会では防災すごろくを行いました。これは地震発生後に時間を追って身にふりかかる様々なことを想像し、その時、自分はどこに避難し、生活していくことになるのかを体験するゲームです。

2～3ページに防災すごろくでたどる避難の一例をシミュレーション化して掲載しています。シミュレーションの案内役は初登場の尾久太です。尾久太は地区内に住む元気な男の子。尾久太と家族が、大地震の後、いつ、どこに避難するのかを考えてみます。皆さんがお住まいの家やまちの被害状況によって避難の形態は変わってきます。皆さんも、ご家族で災害時の避難について想像してみましょう。



●今年度の協議会の取り組み

第1回

(7月4日実施)

【主な議題】

- ・今年度の取り組み
- ・ワークショップ「防災広場・防災スポットの使い方マニュアル作成」

第2回

(11月6日実施)

【内容】

- ・ワークショップ「防災広場・防災スポットの使い方マニュアル作成」

第3回

(1月下旬～2月頃実施予定)

【主な議題】

- ・マニュアルのとりまとめ
- ・災害時対応訓練

今年度の協議会では、防災広場・防災スポットの使い方マニュアルを作り、誰もが利用できるようにしていきたいと考えています。

防災広場・防災スポットの使い方マニュアルを検討

協議会では、防災広場、防災スポットの使い方マニュアルを検討しています。その中で出された主な意見は次のとおりです。

●第1回協議会

- ・イベントなどによって、防災広場・防災スポットの認知度を高められるとよい。
- ・消防署の方に消防水利の使い方を教えてもらいたい。
- ・マニュアルに頼りきりにならないように、「基本は各家庭で備える」、「自宅避難が理想」ということを明確にしたい。
- ・マンホールトイレを使用するのは最後の手段だ。家庭で災害時用トイレを準備することが基本と考えたい。
- ・マニュアルの簡略化した概要版を全戸配布してほしい。



●第2回協議会

- ・防災スポットの見取り図や位置づけが現地に表示されているとよい。
- ・D級ポンプの使い方が難しい。訓練をしていない町会もある。定期的に訓練が必要だ。
- ・備蓄倉庫には発電機や防災ラジオ、プロパンガスもあるとよい。
- ・普段から防災広場や防災スポットの使い方の訓練が必要だ。いくつかの町会で合同訓練をしたい。
- ・区で所有している給水車は1台なので、給水には時間がかかる。各自の備蓄が必要だ。
- ・このマニュアルは震災のためのもので、水害は扱っていないことを明示する。
- ・防災広場・防災スポットの管理者を明記する。
- ・身体障害者の避難対応(トイレなど)が難しい。



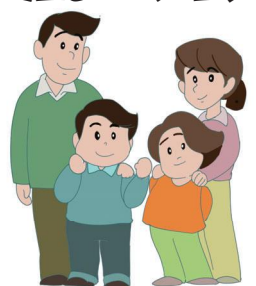
【お問い合わせ】

荒川区 防災都市づくり部 防災街づくり推進課 防災街づくり係 (区役所北庁舎2階⑭窓口)
電話：03-3802-3111 (内線) 2834 fax：03-3802-4104 担当：佐藤、杉山

たどってみよう!

尾久太の避難シミュレーション

ぼくは尾久太。両親と妹の4人で尾久に住んでいる。大地震が起きた時にどんな状況になるか、避難すごろくをやりながら考えてみようと思う。まず、地震が起きた後に、ぼくらはその時どこにいるのか考えてみた。みんなも一緒にやってみよう! 自宅からスタートだよ。



① 地震だ!

10月のある日の午前中、突然の大きな地震。こんな地震ははじめてだ。ぼくはあわててテーブルの下に逃げ込んだ。家は壊れなかったからよかったけど、家具は倒れるし、食器も落ちて割ってしまった。パパは会社に行っている。でも、ぼくら3人はけがをしなかったからよかった。



② 近所の様子は

地震発生1時間後

外に出て近所を見たらびっくりした。街のあちこちで建物が倒れ、たくさんの人が下敷きになっている。ぼくも隣のおばあちゃんの様子を見に行ったら、家具が倒れて動けなくなっていたけど、近所のみんなで助けることができた。



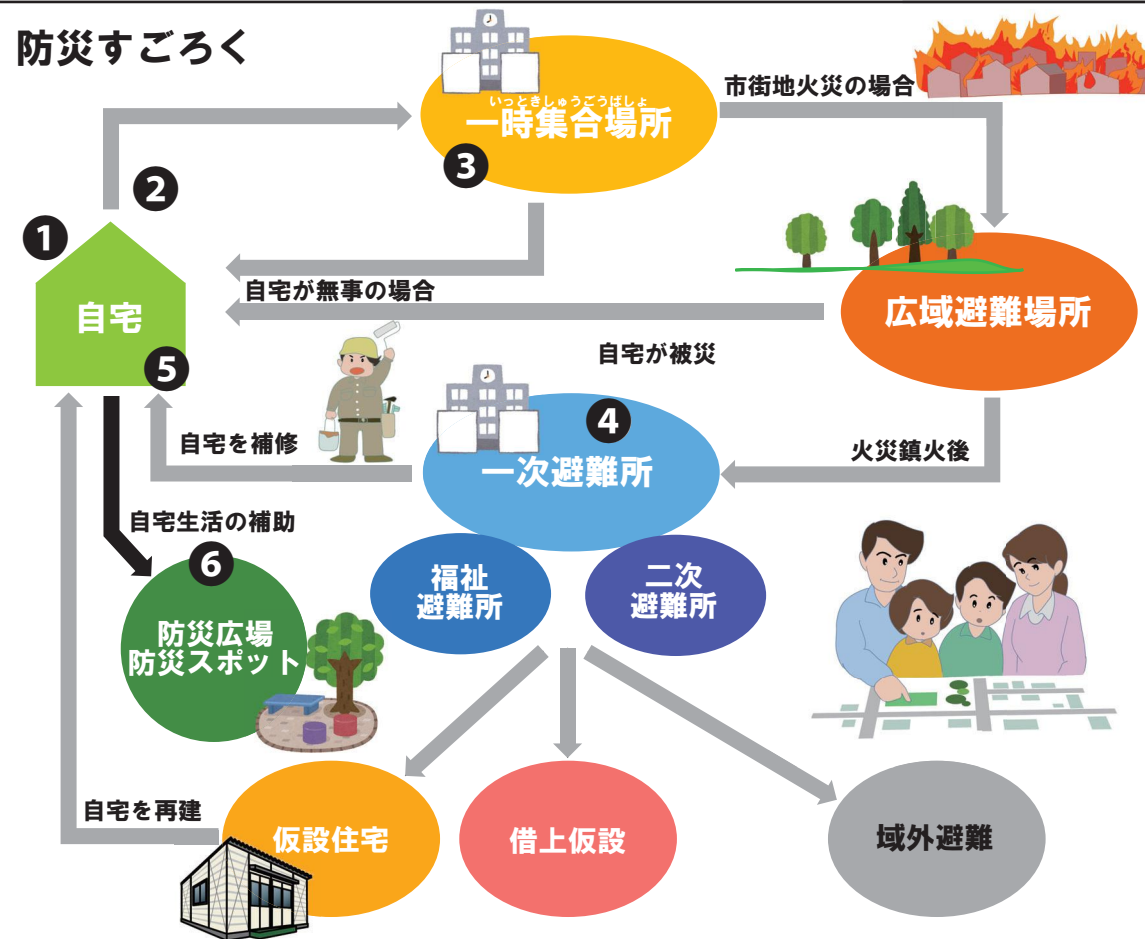
③ 少しずつ以前の生活へ

地震発生1年後

あの大地震から1年経った。街中にあったがれきは撤去されたけど、建替えの制限があり再建できない家も多いようだ。被害が少なかった我が家では以前の生活が戻ってきた。でも、友達の家族には、学校の校庭に作られた仮設住宅で生活している人もいます。大きな火事があった商店街では、仮設のお店ができて買い物ができるようになってきた。少しずつ街には活気が出てきたように感じる。街では町会が中心になって復興まちづくりの話し合いが進められている。早くにぎやかな街に戻ってほしい。



防災すごろく



④ 防災広場や防災スポットがあって

地震発生から3週間後

地震から3週間経ったけど、水もガスも使えないままだ。家の備蓄もなくなってしまった。一次避難所の学校では、救援物資の配付や給水が行われている。自分で受け取りに行かなければならないけど、何とかなりそうだ。自衛隊が仮設浴室を作ってくれたので、3日に1回くらいお風呂に入ることができる。困ったのはトイレだ。近くの防災広場や防災スポットにマンホールトイレがあることを思い出して、使うことにした。自宅で火が使えないので、防災広場や防災スポットのかまどベンチで、近所のみんなでお火を炊き出した。



⑤ 自宅に戻ることができた

我が家は少し壊れたけど、区の人調べてくれて住んでも大丈夫と言ってくれたので家に帰ることにした。家では、電気は使えるようになっていたけど、水道とガスが使えない。だからトイレも使えないしお風呂にも入れない。いろいろと備蓄していたので、当分はそれだけでいい。トイレも非常用トイレにして使うことができる。

地震発生1週間後



③ 一時集合場所へ

地震発生3時間後

ところどころで火事も起きていて、燃え広がっているところもある。停電でテレビが映らず何が起きているか分からない。会社に行っているパパとは、こういう時に学校で待ち合わせることにしていたのを思い出した。ママと妹の3人で、一時集合場所の学校に避難することにした。



④ 学校で避難生活

地震発生1日から3日後

このあたりでは大きな火災が起きなかったから、河川敷にある広域避難場所に行かなくてもよかった。他の地区では大変な被害が出ているらしい。でも家は安全かどうか分からないし、余震も起きているのでそのまま学校にすることにした。パパは次の日になって、会社から歩いて帰ってきた。ようやく家族4人が一緒になった。ママもほっとしているみたい。学校では体育館に避難したけど、たくさんの人に来て大変。食べ物と水、毛布などは区の人が配ってくれた。そのうち炊き出しも始まった。不便でつらい生活だけど、がんばらないと。

